

第1回 東近江市総合計画審議会 第1回 東近江市政策推進懇話会

日 時：令和3年3月19日(金)13:30～15:58

場 所：東近江市役所新館 314・315 会議室

出席者：

委員 17 名

深尾昌峰委員	向 真史委員	寺嶋嘉孝委員	湯ノ口絢也委員
落部弘紀委員	矢島之貴委員	清水 健委員	村田吉則委員
小島善雄委員	山崎 亨委員	大塚ふさ委員	山田 滋委員
後藤 清委員	川副知佐委員	青地弘子委員	筒井 正委員
井上由美委員 (早退)			

(欠席者：大和田聡委員)

事務局 5 名

総合政策担当部長	久田 哲哉	企画部次長	曾羽 道明
総合政策課 課長	古川 暁	課長補佐	角 忠範 係長 松居 正人

1 市長あいさつ

小椋市長：お忙しい中、お集まりいただいたことに心から感謝を申し上げます。難しいことを難しく考えても良い結果にならないので、楽しく進めていただきたい。

平成29年3月に第2次東近江市総合計画を策定し、本市の目指す将来都市像を「うるおいとにぎわいのまち」として掲げ各種施策に取り組んできた。

日本列島の中心近くにある東近江市は、京阪神と中京圏に接している交通の要衝である。さらに、鈴鹿から琵琶湖まで自然環境の多様性が高い地域でもあり、それぞれの地域で森里川湖の文化を育み、千年を超える歴史がある。その潜在力は素晴らしく、国宝に匹敵する価値のある文化財が豊富にあるにもかかわらず、いまだに国宝がゼロであることは行政の責任だと感じている。文化財が存在しているだけではなく、しっかり磨き上げて活用するところに踏み出さなくてはならない。そのため、昨年の機構改革で教育委員会の所管であった歴史文化振興課とスポーツ課を市長部局に移管し、文化スポーツ部を新設した。

文化財の数が多すぎて、かえって注目されなかったジレンマもある。近江商人と木地師とガリ版は、東近江市が日本に誇れる三大発祥である。アイデンティティの象徴として磨きをかけ、活用し、東近江市のクオリティを上げていきたい。

今回の総合計画には、コロナ禍を踏まえた上で、将来のまちづくりを書き込

んでいかななくてはならないが、「新しい日常」ばかりではなく、変えるべきは変え、戻すべきは戻す選択も迫られている。人と人とのコミュニケーションは、実際に会って、お互いの人格を理解し合うことが基本である。私もWeb会議に何度か参加し、事務的な打ち合わせには良いとは思ったが、実効性はないように感じる。

今回、そうそうたるメンバーにお集まりいただいている。皆さんの英知を結集し、東近江市の発展のために力を貸していただきたい。活発な論議をお願い申し上げる。

2 委嘱状交付

- ・小椋市長から総合計画審議会委員・政策推進懇話会委員の委嘱として、第1号委員の深尾委員が委員を代表して委嘱状の交付を受けた。

3 総合計画審議会 会長及び副会長 政策推進懇話会 座長及び副座長 選出について

事務局 : 総合計画審議会と政策推進懇話会は、市の施策全体を考えていただく会議であるため同じメンバー構成としている。よって総合計画審議会の会長・副会長には政策推進懇話会の座長・副座長を兼ねていただきたい。東近江市の総合計画策定条例施行規則第3条及び政策推進懇話会要綱第5条の規定に基づき、委員の互選により選出することになっているが、どのように選出するかお諮りしたい。

委員 : 事務局で考えはあるか。

事務局 : 事務局から提案したいが、異議はあるか。

全委員 : 異議なし。

事務局 : 会長及び座長を第1号委員の深尾委員に、副会長及び副座長を第2号委員の向委員にお願いしたい。

全委員 : 異議なし。

事務局 : 就任に際して、深尾委員と向委員から一言御挨拶をお願いする。

会長 : 冒頭に市長の熱い思いも聞き、大変な仕事だと感じている。「磨き上げる」は良い言葉だと思う。埋もれている資源が多くある中で、東近江市だからそのビジョンを皆さんと一緒に議論していきたい。

副会長 : 多くの先輩や見識のある方の前で僭越ではあるが、会長の足を引っ張らないように努めていきたい。

4 諮問

小椋市長 : 平成 29 年 3 月に策定した第 2 次東近江市総合計画の前期基本計画が令和 3 年度で終了することから、基本構想の時点修正及び後継の基本計画策定について、東近江市総合計画審議会条例第 6 号の規定に基づき、貴審議会の意見を求める。

良い答申を出していただけることを心から期待する。よろしくお願い申し上げます。

5 議題

・小椋市長、公務のため退出

会 長 : 早速、議題に入りたい。資料が多岐にわたるため、本日はインプットが多くなるが、全体の理解を深めるためにも、分からないことは積極的に質問していただきたい。

(1) 各種計画について

(2) 第 2 次東近江市総合計画後期基本計画策定方針について

事務局 : 資料説明

会 長 : 市の最上位計画の議論なので、緊張感と責任感を持ちつつ、ざっくりばらんな話も織り交ぜながら議論できればと思っている。各委員から御質問・御意見はあるか。

全委員 : 質問なし。

(3) アンケート調査の結果について

(4) ワークショップ等の結果概要について

事務局 : 資料説明

会 長 : 各委員から質問・意見はあるか。

委 員 : 購買状況等について、購入先として近江八幡市や彦根市が挙げられているが、インターネットでの購入は反映されているのか。

事務局 : 設問の中では「ネットショッピング」も挙げており、永源寺地区では「ネットショッピング」の率が他地区よりも高かった。

会 長 : 調査結果報告書で各属性が詳しく分析されている。
委員の御質問の意図をお伺いしたい。

- 委員：昨今はネットショッピングのウエイトが高くなってきているため、購買方法の一つとして考えていく必要がある。
- 会長：これまでは「域内・域外」という字句だけで良かったが、ネットでの購入が徐々に増えてきていることを、政策的にもどう考えるかという御指摘だった。
- 委員：非常に興味深いデータだ。年次的な推移について比較検討されているが、近隣地域との比較やバックグラウンドの分析もあれば、東近江市の特性がもっとよく分かるのではないか。また、若者世代は東近江市について知らないことが多いという結果も見えてくる。東近江市の情報を知ってもらうことが、地元愛や親しみにつながるのではないか。
- 会長：「住みごこちがよい」と考えている人が約8割という数字は、直感的には多いと感じられるが、本当に多いのかを判断するための参考が欲しい。重要な指標に関しては比較できる数値などがあれば、より充実した検討が可能になるだろう。
- 委員：アンケート対象者の選定方法と、能登川、八日市、五個荘、蒲生地区以外の居住地区の回答率を伺いたい。
- 事務局：アンケート対象者の選定は、居住地域と年代層の比率を勘案した上で、毎年3,000人程度を無作為抽出している。居住地区別の回答者比率は報告書に詳しく記載している。例えば、永源寺地区は5.3%、愛東は3.5%、湖東は5.7%である。
- 委員：次回アンケート調査を行う際には、例えば地域おこし協力隊の方などに、市外から入ってきておられる観点からアンケートに答えてもらえば、有意義な意見が得られるのではないか。
- 会長：地域づくりなどに参加し、外の目から中の目が変わった人たちに、座談会などで語ってもらっても面白い。
- 委員：私たちは暮らしていると自然を当たり前と感じてしまっているが、外から来た人の目が入ることで、素晴らしいものだ気付けることがある。アンケートでは半数が「自然環境との関わり」を感じておられるが、どんなところに感じているのかを知って、それをアピールし、子どもたちに伝えていくことが魅力を磨くことにつながるだろう。
- 会長：普段からある当たり前のものの価値を自覚するために、外から見た目を入れることがポイントだ。大学生ワークショップでも、首都圏に下宿している東近江市出身の学生などを交えて、オンライン座談会をするような試みも検討してはどうか。
- 委員：大学生ワークショップの「若者が住みたくなるまちに向けて」の意見として、農業に取り組む若者に対する支援が出てきたことは、農業者として大変ありがたい。まちづくり協議会では、人口減少と高齢化による農業の後継者不足を問

題として挙げられているが、意見の共通部分をつなぐことができれば課題解決の一步になると思う。

アンケートでは、若者が働きたくなるまちに必要なこととして「働く場所の選択肢が多い」との回答が多く、東近江市で暮らすことが難しい理由としては「働ける場所が近くにない」が3番目になっている。若者がどういう職種を求めているのかのヒントをもらえれば、もう少し考えやすくなる。

会 長 : 行政の総合計画は、例えば農業は農政と、どうしても部署の固まりごとに縦で考えてしまいがちだが、横軸で考えることで見えてくるものもある。われわれも議論をしていく中で意識していきたい。

委 員 : 私の出身である茨川は廃村になったが、鈴鹿山脈は登る山によって景色がまったく違う。小さいころはよく分からなかったが、ここにしかない光景を見ることができる。自分の住んでいる場所の素晴らしさは、自分で体験することで改めて知ることができる。私が理事を務めるコミュニティスクールでも、基本的な方針は体験だ。お祭り、山登り、米づくりを体験させると子どもたちの目が輝いている。実体験や映像を通して、他の地域にはない魅力や自慢できる場所について経験できる機会を学校教育の施策として設けて欲しい。

会 長 : いまある魅力や価値をどう再確認して、どう共有していくかということが議論の根底にある。学校教育との接続だけではなく、大人たちも発見できる機会があって、親が子どもに伝えるルートも大切だと思う。

委 員 : まちづくり協議会に参加している人さえも、自分たちの地区以外のことはよく分かっていない。自分たちの地区のいいところを知るためにも、他地区のこともしっかり見聞きし、理解し合うことが非常に大切だと感じている。東近江市が誕生して15年、いつまでもまちづくり協議会で競争してはいけないという意見もあった。

市長が開会挨拶で述べられたコロナ禍に対する意見は、私も同感だ。コロナ騒ぎにあまり感わされず計画を練る必要があると、まちづくり協議会で話し合っている。

会 長 : 合併後、ある程度の時間が経った中で、それぞれの地区の特性や文化を大事にしなが、もう少しお互いに知り合うべきだとの御意見だった。それぞれのまちの状況も教えていただきながら、われわれの議論も進めていきたい。

膨大な資料で、私自身も全てを読み解けていないが、いま一度、深く読み込んでいただき、疑問や興味のある点をご意見をいただきたい。(3)(4)について、他に御意見があるか。

全委員 : 意見なし。

(5) 第2次総合計画前期基本計画成果課題集について

- 事務局 : 資料説明
- 会長 : 委員の御専門・バックボーンを中心に意見を伺いたい。産業に関する統計、野菜の作付けや販売について、コメントはあるか。
- 委員 : コロナの影響で業者の米需要が減り、全国的にも数十万トンの米が余るなど飽和状態になっている。東近江市の品目別農業産出額は米が6割を占めているが、米に依存せず、野菜や園芸品目を増やしていかなければ農業経営が難しい時代になってきている。

農業水産課にも注力していただき、業務用野菜の作付けを増やしていく方向ではあるが、他の大産地と同じものをつくっても、量では勝負にならない。東近江市ならではの園芸作付けとブランドで差別化を図り、PRしていくことも熱意を持って検討したい。

- 会長 : 東近江市の商業について感じておられることを伺いたい。
- 委員 : 物販関係でコメントしたい。市とともに八日市駅前の中心市街地活性化に取り組んでいるが、地元ではなく周辺からの新規出店が驚くほど多く、地元の店が厳しくなっている状況にある。コロナが収束して普通の社会生活に戻ったとき、商売の周辺状況がどう変わるのかは注意深く見ていく必要がある。飲食店も、ドライブスルーのあるところは車が渋滞するほどで、駐車が必要な店との差が出てきているようだ。

- 会長 : 外国籍の市民が増え、工場などの貴重な戦力になっている。市内の就業者状況や外国人労働者について、実際の現場からの意見を伺いたい。

- 委員 : 現在、10数箇国からの外国人が市内で就業されており、ある工場では20名近くが外国人労働者で、インドネシアやベトナムから来られている。ただ、いったん正規に入ってこられて、夜逃げ同然に去っていき、なおかつ自分で他の仕事を探していくような、正規ルートを外れる外国人労働者もあると聞いており、地域と揉める原因にもなっている。市としてきっちりした姿勢で挑んで欲しい課題だ。

コロナの影響で派遣会社に人余り現象が起きており、なんとか使ってもらえないかとの話をいただく。そうかと思えば、地元企業に入ってくれる新卒者は意外と少ない。今年は就職が厳しいと聞いていたので、地元雇用を期待していたが、かなり外へ取られたようだ。家内工業でやっているところも労働力を求めているが、新卒者を採れない現状がある。

昨今、自治会離れと言われているが、この数年で集合住宅が増えて住人の入れ替わりも激しいので、自治会長があたふたされている。企業側にも、もっと地域に貢献してもらえないかと聞いているが、うまみは全て派遣会社が持っていかれているようだ。

ある程度の日本語教育をされて入ってくる外国人労働者もいるが、やはり言語の問題で地元との交流が難しく、同じ国の人ばかりが寄ってしまっている。企業や地域も何らかのかたちで関与しながら、外国の方々からも、いい地域へ来たと思ってほしい。

最近では、企業よりも派遣会社に就職される方が非常に多い。いままで1時間当たり1,400~1,500円だった賃金も、社会保険関係や退職金も含めれば2,000円を超えるようになっている。派遣社員というと弱者のように聞こえるが、その辺も考えていく必要があると強く感じる。

会 長 : 構造的な問題を仕方がないで済ますのではなく、東近江市の事業者の皆さんと連携して、何か仕組みをつくっていくこともあり得るだろう。自治会の加入率は日本人もどんどん低下しているのだから、併せて考えていくことが大事だ。

あつてはならないのは、外国人労働者が差別的な扱いを受け、地域で問題を起こした結果として、また差別行動につながる悪循環にならないよう、共生や相互理解の体制をつくっていく必要がある。夜逃げした人たちを捕捉できず、また他の地域に入っていくようなことは、できるだけ起こらないようにしたい。これだけ多様な国の人がおられることは、子どもたちが多文化に触れられる環境でもある。貴重な労働力でもあり市民でもあるので、ポジティブにも考えていきたい。

委 員 : ここ10年、20年で農業法人がかなり増え、安心だと捉えられているかもしれないが、私も小さな農業法人をやっていて、5年先、10年先どうなっているのか不安があり、近隣の農業法人の皆さんも同じようなことを言われている。

以前は家族経営で農業をやってきたが、農業法人になったがために家族が農作業に出てきてくれなくなった。後を継ぐと言っていた息子も、父親がやればいいという感じで、思っていた方向とは違ってきている。農協や農業委員でも考えておられることだとは思いますが、東近江市は農家の多い土地なので、引き続き多方面での検討をお願いしたい。

委 員 : 外からの目を大事にしたいということは、私も常日頃から強く思っている。私自身、50年前に関東から旅行で来た際、永源寺をととても気に入って40年前から住んでいるので、素晴らしさも課題もよく見える。

大人も子どもも、自分の住んでいる地域について知らないことが多く、いかに気付いてもらうかがスタートになるだろう。地元でずっと勤めている人と、あちこち回っておられる人は違う視点があり、その中で自分がどう動くかにもつながっている。

子ども時代の体験と教育の話があったが、体験は何よりの財産だ。大人は、子どもたちはコロナ禍で修学旅行にも行けずにかわいそうだが、先日の卒業式では「みんなと協力して、様々な取組ができたことは財産だ」と卒業生

が言ってくれて、大人よりもパワーがあると感じた。しかし休校が続いた関係で学習が遅れてしまっているところに、新しく外国語教育やICT教育も入ってくる中で、体験の時間をどう組んでいくかが大きな課題だと思っている。今後も考えていきたい。

会 長 : 学校現場の過重労働も叫ばれて久しいが、全てを学校に押し付けるのではなく、コミュニティスクールのように地域ぐるみで支えながら、子どもたちが豊かに育つ方策を考えていくことも重要だ。

達成目標の評価もいただいているが、比較的B評価やC評価が多くなる傾向は仕方がないと思う。その中でもA評価の付いている事業は特に取組が進み、D評価は課題を認識されている事業だろう。次回以降の議論に役立てていただきたい。

その他、意見はあるか。

全委員 : 意見なし。

(6) 第2期東近江市まち・ひと・しごと創生総合戦略改定案について

(7) 東近江市定住自立圏共生ビジョン改定案について

事務局 : 資料説明

会 長 : 策定の日付はどういうプロセスで決まるのか。

事務局 : 本日の御意見を反映し、市長の決裁を経た後に日付が入る。

会 長 : 了解した。大きく構造を変えることはできないと思うが、新型コロナについての加筆がされていることを確認いただきたい。委員から意見はあるか。

全委員 : 意見なし。

会 長 : 市長の決裁後、最終確定版を皆さんと共有したい。

(8) スケジュールについて

事務局 : 資料説明

会 長 : 基本的に総合計画審議会と政策推進懇話会は同時に開かれる予定。夏場は大変な作業になることが予想されるが、よろしく願い申し上げる。

6 その他

事務局 : 次回は7月5日(月)午後1時30分から開催したい。

会 長 : 本日の案件を全て終了するが、他に意見があれば伺いたい。

全委員 : 意見なし。

会 長　　：　以降の進行を事務局にお返しする。

部長あいさつ

部 長　　：　本日は長時間に渡る会議に感謝申し上げます。コロナ禍もあって第1回の開催がこの時期になったが、皆さんに直接お集まりいただけたことで有意義な議論になった。2回目のアンケート調査も検討中なので、次回にまた御議論をいただければありがたい。

私は、父の仕事の関係で日野町に12年間住んだ後、出身地の永源寺に帰ってきたが、いまでも日野のまちが好きで、訪れると当時の楽しい思い出がよみがえる。里山保育のお話もあったが、小さいときの思い出は心に強く残る。外へ出ていった人にはなかなか帰ってきてもらえないが、育った地域に良い思い出があれば、将来はまちの応援団になってくれると思っている。子どもたちや若者が夢を持てる地域になるよう、総合計画の議論も進めていきたい。

10年を「ひと昔」と言った時代もあったが、いまは10年あれば社会が激変してしまう。コロナ禍で1年間足踏みしたが、腰を据えて総合計画の議論ができる時間が与えられたと、前向きな思いで取り組んでいきたい。今後とも御協力をお願い申し上げます。

(終了)